The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	キャリア教育の充実度を高めるためには
Author(s)	
Citation	令和4（2022）年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書. 2023
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90961
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式６

申請先学部：人間科学部　採択番号　No.人３

令和４年度「学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書

ふりがな 氏　　名	まつい　かすみ 松井　香澄	学部 学科	外国語学部外国語学科スワヒリ語専攻	学年	２年
ふりがな 共　同 研究者氏名		学部 学科		学年	年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	志水宏吉先生	所属	人間科学研究科		
研究課題名	キャリア教育の充実度を高めるためには				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。（先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。）				

研究目的：

本研究の目的は当初、高等学校におけるキャリア教育の充実度を高める要素を明らかにしたうえで教育の理想像を形成し、最終的に具体的なキャリア教育のモデルを提案することだった。しかし、以下本報告書内にても論ずるが、本研究を進めていく中で、当初立てていた仮説を変更するなど、内容も変わり、時間的猶予がなかったため、最終的な本研究の目的は高等学校におけるキャリア教育の充実度を高める要素を明らかにすることを目的とした。

前提：

キャリア教育の充実度は何をもって高いと言えるのか、ということについては様々な観点があるが、本研究においては客観性を重視し、表彰実績がある、もしくは外部からの評価、指定などがあるというものとする。今回選んだ３校に関してはそれぞれ、出雲高校は文部科学省の一事業である SSH の指定校であり、隠岐島前高校は SGH の指定校であり、高校魅力化プロジェクトの取り組みが総務省後援の「プラチナ大賞」を受賞、そして大崎海星高校は文部科学省・経済産業省「第 10 回キャリア教育推進連携表彰」最優秀賞授業などをはじめとする数々の賞を受賞している。よって、今回研究対象とした三校に関してはキャリア教育の充実度は高いとする。

研究計画：

研究計画も当初とは少し異なる。当初の計画は以下のとおりである。

７月　先行研究調査、高校などにアポイントメントを取る、高校について調査する

８月　高校の先生に対してのインタビュー調査（質的調査）

９月　アンケートの作成、アンケート調査の実施（量的調査）

10 月　アンケート結果集計

11 月　研究まとめ
当初は研究をこのように進めていく予定であった。しかし、実際は想像以上に時間がかかってしまい、研究計画より少し遅れてしまった。実際の研究実施期間のスケジュールはこのようである。
7 月　高校などに関する調査
8 月　高校などにアポイントメントを取る
9 月　インタビュー調査（島根県立出雲高校、島根県立隠岐島前高校、広島県立大崎海星高校）
10 月　調査のまとめ、研究計画変更
11 月　再度出雲高校で先生に対してインタビュー調査、まとめ

研究方法：
当初は高校の先生方（出雲高校、隠岐島前高校、大崎海星高校）に対し、インタビュー調査を行い、キャリア教育の充実度を高める要素を抽出し、抽出した要素が本当にキャリア教育の充実度を高めているのかというのを生徒に対してアンケート調査を行い、検証する、というものであった。しかし、3 校のインタビュー調査を行った後、仮説とは少し異なる要素が出てきたため、もう一度、出雲高校の先生にインタビュー調査をすることにした。再度インタビュー調査をした後、アンケート調査を行いたかったが、時間的余裕がなかったため、今回はそのアンケート調査の結果の代わりとして出雲高校が学校で行っている課題探究におけるアンケートの結果を使用する。

研究成果：
本研究は当初、島根県立隠岐島前高校と広島県立大崎海星高校に実地調査に行かせてもらう予定だったが、高校の都合により、隠岐島前高校はオンラインでインタビュー調査をすることになった。また、様々な高校を調べていく中で、出雲高校のキャリア教育に関心を持ち、出雲高校のキャリア教育について調査を進めることに決めた。それゆえ、最終的にインタビュー調査を行ったのは島根県立出雲高校、島根県立隠岐島前高校、広島県立大崎海星高校の三校である。ここではその 3 校の先生方、また生徒たちに行った調査結果に関して述べる。
まず、出雲高校についてである。当初、出雲高校の GRITismNote というものに関心を持ち、インタビュー調査をしようと考えた。GRITismNote とは出雲高校の生徒が一人一冊持っているスケジュール帳のようなものであり、勉強時間、勉強計画などを記入する。このノートの実物、詳細を見たのは実際に高校へ調査に行った時である。インターネットなどで情報を得られなかったため、GRITismNote は生徒の夢を実現するための、自分と向き合うためのノートであるということを期待していたが、実際はスケジュール帳のようなものだった。また、先生や生徒に対するインタビュー調査において、出雲高校の生徒全員がこの GRITismNote を活用しているわけではない、ということがわかった。実際に使っている生徒の話を聞くと、自己管理、自己内省などかなりの効果が期待できそうではあるが、多くの生徒が活用していないことから、出雲高校において、GRITismNote はキャリア教育の充実度を高めている要因であるとは言い難いであろう。しかし、実地調査を行う中で、学校としては GRITismNote よりも課題研究に力を入れているということを知った。これが、のちの出雲高校のインタビュー調査 2 回目に繋がる。
次に、隠岐島前高校である。隠岐島前高校は課題探究を「夢探究」と称しており、1 年次では探究の基礎を学び、2 年次で地域課題の課題解決と価値創造を目的としてチームでの課題探究を行い、そして 3 年次では 1、2 年次で得た力を基に個人で興味を持ったマイテーマに取り組んで課題探究に取

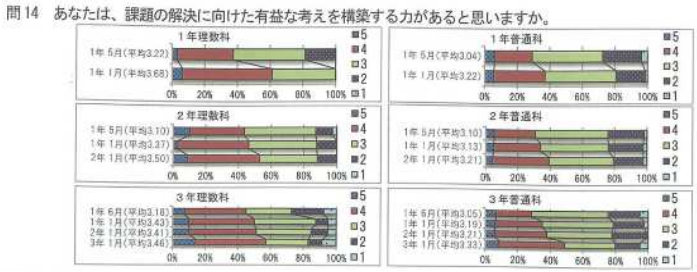
り組む。隠岐島前高校の最大の特徴は「他校ではできないことを実現までもっていくこと」である。大きな目標を立てて、そこに向かってスモールステップでいいから探究のサイクルを回すことを意識している。また、地域からのバックアップがあるのも特徴である。

最後に大崎海星高校である。大崎海星高校では課題探究を「大崎上島学」と称し、1 年次は羅針盤学で、島を知ることをテーマに様々なことを体験する。ここにおける目標は自己理解と他者理解である。島に出て、島を発見し、島の人と関わる中で興味を発見させる、島の魅力を感じられるようになっている。それらの活動の中で自分自身を見つめる、自分を知るということを重視している。2 年次は潮目学で、ここでは作品を生み出すことをテーマとする。ここではチームで何かを作り出す、生み出すことに重きを置き、探究活動を行っている。3 年次は航海学で一、二年次の経験を活かし、自分でプロジェクトを進めていく。私が実地調査に行った時のフィールドワークの時の写真である。

このように地域の人と関わる機会が多くあるのが大崎海星高校の特徴である。インタビュー調査をしていて、先生から楽しいだけで終わっている、実績を重視しすぎているという話も聞いたが、実際に学校を出て、地域の人と関わることによって得られる体験はとても貴重なもので、生徒のキャリア形成にかなり役立っているだろう。

出雲高校、隠岐島前高校、大崎海星高校でのインタビュー調査、授業見学を経て共通していた点はどの高校も課題探究に力を入れている、ということである。しかし、この時点では、出雲高校で課題探究の話を詳しく聞くことができていなかった。そのため、さらにこの 3 校で課題探究に関する共通点や相違点について考察するためには出雲高校の先生方に再度インタビュー調査をする必要があると考えた。その後、再度出雲高校の先生方に課題探究についてインタビュー調査を行った。

出雲高校の課題探究の特徴は出雲モデルと呼ばれる全校指導体勢である。生徒たちをグループ分けさせたときに 1 グループに 1 人、アドバイザー教員が付くようになっている。各グループに 1 人先生が付くことによって大規模な学校において少人数体制が整っている環境を実現している。そんな出雲高校の先生へのインタビュー調査の中で印象的だったのは、全員が深掘りして考えることが大事である、という点だ。賞を取ることももちろんいいことであるが、まずは生徒たちに考えさせる、ということを先生方が意識しているのがわかった。また、入試など直前の未来のために行っているのではなく、社会に出たときに役立つ力を身に付けてほしいとも先生方はおっしゃっていた。また、以下の表はインタビュー調査後にいただいた出雲高校の 2021 年度の SSH 成果報告書である。本研究の内容に一致する項目を以下抜粋して取り上げる。質問項目十四の「課題解決に向けた有益な考えを構築する力があると思いますか」という問いに対して、理数科、普通科ともに 1 年生から 3 年生になるにつれてとてもそう思う、そう思うと答えた生徒の割合が高くなっているのがわかる。



考察：

3 校に対するインタビュー調査を行い、まず大前提として課題探究は生徒たちのキャリアに大きく役立つものだという結論に至った。「こうした一連のプロセスを体験する中で、課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力など、汎用的な力を高めることが期待できる。」（2016）と関西大学の黒上教授は述べている。「こうした一連のプロセス」とは課題探究のプロセスを指す。これらの力は文部科学省が定義する 4 領域 8 能力の中に多く含まれており、探究学習がキャリア教育の充実度を高めていると言えるだろう。その様々な力を得られ得る課題探究の中でも大きく分けて 2 つのことが課題探究の充実度を高める要素だと私は考える。1 点は隠岐島前高校、大崎海星高校に共通する、「実践」の過程が多いことである。どちらの高校も地域に関する課題研究を行っており、校内外において多くフィールドワークを行っている。座学ではなく、実際に生徒たちが足を運んで活動することによって、自分の興味、関心が広がり、最終的に自己理解に繋がっていくと考える。2 点目は出雲高校の 2 回目のインタビュー調査で聞いた、「考える」ことを重要視することである。課題研究の最大の特徴は答えのない問いに対しどうアプローチするのかを生徒たち自身が考えることだと考える。出雲高校は成果よりも考える過程を重要視していることが特徴であり、それが出雲高校のキャリア教育の充実度を高めている要素ではないかと考える。よって、本研究の結果から「実践」の過程が多いこと、「考える」ことに力を入れることの 2 点がキャリア教育の充実度を高める要素であると言えるだろう。

参考文献一覧

2021 年度出雲高校 SSH 成果報告書（情報取得日：2022 年 12 月 2 日）PDF ファイル
①
file:///C:/Users/user/Desktop/%E8%87%AA%E4%B8%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E2%91%A0.pdf
②
file:///C:/Users/user/Desktop/%E8%87%AA%E4%B8%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E2%91%A1.pdf

③

file:///C:/Users/user/Desktop/%E8%87%AA%E4%B8%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E2%91%A2.pdf
④
file:///C:/Users/user/Desktop/%E8%87%AA%E4%B8%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1%E2%91%A3.pdf
⑤
file:///C:/Users/user/Desktop/%E8%87%AA%E4%B8%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E9%AB%98%E6%A0%A1%E2%91%A4.pdf

文部科学省、「キャリア教育とは何か」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1306818_04.pdf　（情報取得日 2022 年 12 月 11 日）

関西大学総合情報学部 教授 黒上晴夫, 二〇一六,「探究のサイクルを繰り返すことで汎用的な力と深い知識の両方を得る」
https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-board/article04222/
（情報取得日 2022 年 12 月 12 日）

島根県立出雲高等学校ホームページ
https://www.izumo-hs.ed.jp/
（情報取得日 2022 年 12 月 12 日）

広島県立大崎海星高等学校ホームページ
https://www.osakikaisei-h.hiroshima-c.ed.jp/
（情報取得日 2022 年 12 月 12 日）

島根県立隠岐島前高等学校ホームページ
https://www.dozen.ed.jp/
（情報取得日 2022 年 12 月 12 日）

隠岐島前教育魅力化プロジェクト, 2013, [海士町による取り組み「魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり　～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～」が、第１回プラチナ大賞（大賞・総務大臣賞）を受賞しました。]
http://miryokuka.dozen.ed.jp/library/2013/07/25-1340/
（情報取得日 2022 年 12 月 12 日）